



健やか豆知識

第38回

(ひきつけ)

Q. 子どもが初めてけいれん発作を 起こしたときの対応として 正しいものは?

- I 子どもから離れて119番する
- II 子どものからだを強くゆする



- III けいれんの様子を観察し、記録する

発作の様子を記録し、受診時に医師に見せましょう

けいれん発作にはいろいろな原因がありますが、特に脳に原因があり発作を起こしている場合は「てんかん」が考えられます。てんかんは、脳が突然興奮し、発作を繰り返す病気で、生まれつきの場合や、事故などによる脳の損傷、インフルエンザ脳症など原因は様々です。発作の症状もそれぞれ異なり、患者さんの病気との付き合い方も十人十色です。

子どもに多い欠神発作(突然意識がなくなる)などは、幼稚園や学校で「これはてんかんの発作ではないか」などの指摘で初めて気づき、受診することも多いです。けいれんを起こすと周りは慌てると思いますが、できるだけ様子を観察してあげてください。医師が診察時に発作を観察できる機会は少ないため、発作の様子をスマートフォンなどで撮影し、動画を見せることができれば重要な情報となります。加えて、発作前後の記憶の障害の有無や発作の起こりやすい時間、睡眠との関係などの記録もあれば非常に役立ちます。

てんかんが疑われる場合は、血液、髄液、脳波、MRI、心電図などの検査を行い、てんかんであれば発作の分類を決めます。治療は通常、抗てんかん薬の内服から始まり、場合によっては内服なしで経過観察となることもあります。3~5年服用し、発作が治まった状態が続いている場合は、薬を徐々に減らすことも考え、発作が起きなければ薬を中止することも考えます。

てんかんと診断された子どもは、「いつまた発作が起きるか」と不安を抱えています。発作や治療薬について詳しく説明し、同じてんかんを持つ子と交流する(自分とは異なるてんかん症状を知る)ことで、孤立感をやわらげ、自分から病気との付き合い方を決められるようにサポートしてあげましょう。まずは家族で、病気のことを知ることからはじめ、疑問点や不安なことがあれば主治医やてんかんの専門機関に相談するとよいでしょう。最近ではてんかんのある子どもたちのために、学校や地域のサポート体制も進んでいるので、上手に活用できるとよいですね。

監修 高橋 幸利 静岡てんかん・神経医療センター院長

< III 掘玉 >

さらに詳しい情報は
ホームページで!



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください。